山川菊栄賞〈通称〉の選考・贈呈を来年度で終了します

すでに、昨年度来、ご案内しておりますように、山川菊栄賞（通称）の選考・贈呈を、来年度〈2014 年度〉限りで停止する予定です。この予告に対して、色々な方々から、ぜひ続けてほしい、続けるべきだとのご意見を頂戴しました。こうした期待を寄せていただいていることを、私たちはとても光栄に思い、ありがたく受け止め、何とか存続できる道はないかと、記念会で再度検討し直しましたが、残念ながら、選考と贈呈をこれ以上続けることは、そろそろ限界であるとの結論に達しましたので、ここにご報告する次第です。

すでにご承知の方も多いと思いますが、山川菊栄記念会は、1980 年に山川菊栄が亡くなった後に発足したささやかな会です。山川菊栄の米寿記念のお祝い金や、逝去の際に寄せられた香典等を基に、ご遺族の山川振作さんの呼びかけに応えて、田中寿美子さん、石井雪枝さん、菅谷直子さんたちによって設立された会です。記念会発足とともに、山川菊栄記念婦人問題奨励金制度を創設し、毎年、その年度に出版された「婦人問題研究」の優れた作品を選考させていただき、その作者に、わずかながら奨励金を差し上げる活動をしてきました。この制度の創設に当たって、社会的上位者が下位の者を顕彰する「賞」という言い方は、山川菊栄の遺志になじまないということで、あえて「賞」という名称を避けたと聞いています。

山川菊栄記念会が発足した 1980 年当時は、婦人問題（女性問題）を研究する人の数も少なく、発表の場も乏しく、大学等の研究機関に職を得ることも非常に困難な時代でした。その時代に、在野で長年こつこつと研究をされてきた方々に、コピー代の足しにでもしていただければということで、この奨励金制度が創設されたことは、とても意義のあることだったと思います。

けれども、それから 30 年以上が経った現在、うれしいことに、女性学・女性史やジェンダー研究の学会がいくつも出来、大学等でも講座が開講され、文部科学省科学研究費の対象領域の 1 つの分野としてジェンダー研究が位置付けられる状況の中で、研究も活発化してきました。東京女子大学による青山なお賞、日本女子大学の平塚らいてう賞、昭和女子大学女性文化研究奨励賞、お茶の水女子大学に事務局を置く竹村和子フェミニズム基金など、大学をベースとする賞や基金、また女性史総合研究会の女性史学賞、ジェンダー法学会西尾学術奨励賞、国際ジェンダー学会の女性学研究国際奨励賞、国際女性の地位協会の赤松良子賞等々、女性学･女性史・ジェンダー研究の学会をベースとする賞、さらに、市川房枝記念女性の政治参画基金、・グループみこしによる、ジェンダー平等をめざす藤枝澪子基金など、新たな研究の支援に向けて、助成金を付与する民間の基金も、複数発足しています。

このような学問状況の変化に伴い、歴史学、社会学、法学、経済学、社会政策学、メディア研究等々、多方面の分野で、質量ともに蓄積が重ねられ、博士の学位を取得する女性研究者も多くなっています。山川菊栄記念婦人問題奨励金も、いつしか山川菊栄賞と通称

で呼ばれるようになり、また、推薦される作品にも、数年以上にわたる研究成果をまとめた博士論文が、多数を占めるようになっています。特に近年の受賞作は、ほとんどが博士論文を書籍化した作品となっており、記念会発足時に想定された、いわゆる在野の研究者の受賞の方が、むしろ特記に値する状況となっています。たとえば、今年度〈2013 年度〉の第 2 次選考に残った 3 作品は、いずれも博士論文を書籍化したものです。

山川菊栄記念会設立後、30 年以上が経ちますが、山川菊栄から直接薫陶を受けた創設メンバーはすでに鬼籍に入り、現在の記念会は、選考委員と世話人を兼ねる 11 名で運営していますが、そのほとんどが、山川菊栄を書物を通してしか知らない、または晩年に 1・2 度お会いする幸運に浴しただけの、いわば山川の孫弟子に当たる者たちです。それでも現在まで、記念会は、毎年の選考委員会での議論などを通じて、山川の直弟子である記念会第 1 世代の方々から、山川菊栄の思想や生き方を折に触れて学びつつ、それを受け継ぐ努力を重ねてきました。それゆえ、創設者たちがすでに不在となり、山川菊栄記念婦人問題奨励金が山川菊栄賞と呼ばれるようになった近年においても、山川菊栄賞は、女性学・女性史・ジェンダー研究に関する、単に学問的に洗練された精緻な業績というだけでなく、女性の視点、社会から虐げられた人々の立場から、アクチュアルな問題提起をしている作品を選び、奨励金を贈呈してきました。その意味で、他の同種の賞とは異なる、山川菊栄賞の独自性を保ってきたという自負がないわけではありません。

私たちは、こうした、フェミニズム・社会変革にとって有意義な作品を選考し、世に広める活動を、できれば続けたい気持ちは、山々です。とはいえ、学会や大学やメディア等の組織的バックを持たず、資金的にも人員的にも、ささやかな山川菊栄記念会。しかも、正直なところ、高齢化しつつある私たち選考委員が、ジェンダー研究の多様化と急速な進化に、今後も対応していけるのかという不安もあります。こうした諸事情を勘案した結果、記念会としては、残念ながら、奨励金の選考と贈呈をこれ以上続けることは、そろそろ限界であるとの結論を、改めて確認したしだいです。

30 年以上にわたり、毎年、賞の選考に向けて、素晴らしい研究を推薦してくださってきた方々、新しい研究者の記念スピーチを楽しみに毎年贈呈式に足を運んでくださっている方々、この山川菊栄賞を見守り、育てて下さった多くの方々にあらためて感謝申し上げます。また、この奨励金を励みにこれから研究をまとめようと思っておられる方々には、申し訳ないと思いますが、どうか、事情をご理解いただきたく、お願いします。

もっとも、研究助成金の選考と贈呈は終了しますが、山川菊栄記念会を閉じるわけではありません。長年山川菊栄文庫を置いて下さったかながわ女性センターも、近々業務を停止し、2015 年度の縮小移転に向けて準備を開始します。山川菊栄文庫の行き先はまだ不透明な部分もありますが、県の担当者は、横浜紅葉ケ丘の県立図書館で一括保管し、閲覧等のサービスは今までと遜色ない形で継続すると約束してくれています。

記念会では、移転後も山川菊栄文庫所蔵物をはじめとする、山川菊栄関連資料の保管・情報提供などについては、責任をもって対応し続ける所存です。また、1990 年, 2000 年,2010

年に実施した山川菊栄生誕 100 年,110 年,120 年記念事業の成果物、つまり冊子、書籍や、DVD「山川菊栄の思想と活動ー姉妹よ、まずかく疑うことを習え」、またパネル「山川菊栄の生涯」等の保管・貸出・販売等の活動は、もちろん続けます。

さらに、来年 2015 年には山川菊栄生誕 125 年記念事業を開催し、それを機に新たに、山川菊栄についての学習や研究のサポート活動等を開始することなどを検討中です。もしかしたら、その中から、山川菊栄の名を冠するにふさわしい、新たな奨励金または賞を復活させる意欲と活動力に満ちた若い方々が現れることも期待できるかもしれません。山川菊栄記念会について、皆さまから積極的なアイデアやご意見を寄せていただければ、幸甚です。

2014/4/4

山川菊栄記念会